

アジ研 ワールド・トレンド

発展途上国の明日を展望する分析情報誌

6

2006

第129号

特集●

特集／農村開発と農村研究

現地レポート●

第二期アロヨ政権下の非常事態宣言



CONTENTS

2006・6月号
第129号●目次

1 巻頭エッセイ 貧困削減と農村開発

西牧隆壮

特集 農村開発と農村研究

- | | |
|---|------------|
| 2 ●特集にあたって―農村開発ブームは再来するか | 水野正己 |
| パートⅠ 日本の農村開発に農村研究の果たした役割 | |
| 4 ●宮本常一と農山漁村振興―地域の主体的な開発を目指して | 松井和久 |
| 8 ●山本陽三の遺産―現代的意味解釈への一考察 | 辰己佳寿子 |
| 12 ●矢口光子と生活改善―日本の経験を活かす農村開発手法 | 富田祥之亮 |
| 16 ●農村社会学的視野と農村開発―生活改善運動における「社会的準備」活動 | 池野雅文 |
| 20 ●農村と山村の狭間で | 清家政信 |
| パートⅡ 途上国の農村研究と農村開発 | |
| 24 ●ネパールの農村開発と人類学 | 水野正己 |
| 28 ●農村開発と「在地の自覚」―コミラモデルとグラミンバンクを端緒に | 安藤和雄 |
| 32 ●農村開発プロジェクトの課題―生産と生活をいかにつなげるか | 佐藤 寛 |
| 36 ●水をエントリーポイントとした農村開発 | 杉田映理 |
| 40 ●農業大学と途上国の農村開発 | 板垣啓四郎 |
| | |
| 44 現地リポート 第二期アロヨ政権下の非常事態宣言―エドサ革命二〇周年の節目に | 知花いづみ |
| | |
| 48 トrend・リポート 文字基盤整備と東アジア共同体―漢字の共用と経済をめぐる戦略的思考の試み | 山中龍太郎 |
| | |
| 52 フォト・エッセイ エジプト遊牧民の一夫多妻 | 常見藤代 |
| | |
| 56 カルチャー・ショック | |
| 日本式いけばな―自然と調和探しの道 | 劉 翔峰 |
| タイム・スリップ後の中国再訪 | 石田正美 |
| | |
| 58 ブックシェルフ | |
| 新刊紹介／大西康雄編『中国 胡錦濤政権の挑戦―第一次五カ年長期計画と持続可能な発展』 | 大西康雄 |
| レファレンスコーナー／仏教と開発 | 石井美千子 |
| | |
| 60 アジア各国・地域 経済統計 | 図書館資料サービス課 |
| | |
| 64 研究所だより | |

◆表紙写真：インドネシア・ロンボク島の農作業風景（写真提供：裕林社、撮影：中塚裕）

◆本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、日本貿易振興機構あるいはアジア経済研究所の公式見解を示すものではありません。

情勢分析レポート No.2 発売中 1,575 円

福田安志編『アメリカ・ブッシュ政権と揺れる中東』

●序 章	イラク戦争後の中東と本書	福田安志
●第 1 章	2 期目のブッシュ政権との中東政策	立山良司
●第 2 章	アメリカの世論と中東・イスラーム	西村陽一
●第 3 章	アル＝ジャズィーラ・テレビとアメリカ	渡邊正晃
●第 4 章	中東におけるイスラーム主義運動の現状	ディアア・ラシュワーン
●第 5 章	イラク——袋小路に陥るアメリカの対イラク政策——	酒井啓子
●第 6 章	パレスチナ・イスラエル——ガザ撤退の政治的位相——	池田明史
●第 7 章	アフガニスタン——「民主化」の行方——	田中浩一郎
●第 8 章	イラン——2005 年選挙と政治潮流の転換——	鈴木 均
●第 9 章	シリア・レバノン ——アメリカの「民主化」要求が強化する「非民主的」体制——	青山弘之
●第 10 章	サウジアラビア——テロと民主化——	福田安志
●第 11 章	トルコ——対米関係と内政——	間 寧

ラテンアメリカ・レポート Vol.23 No.1 発売中 840 円

●フォーラム	バチレ大統領誕生と「日本の選択」	細野昭雄
●特集	バチレ新政権誕生とチリ政治経済の再評価 特集にあたって	北野浩一
	ラゴス政権からバチレ政権へ ——チリ大統領・議会選挙にみる継続と変化——	安井 伸
	活発化するチリの対アジア太平洋地域経済外交	岡本由美子
	1990 年代チリの民営化政策とバチレ新政権の展望	道下仁朗
	輸出主導型経済成長と所得分配問題 ——1980 年代後半から 2000 年代前半までのチリの事例——	高橋直志
●論考	2006 年大統領選挙にみるコスタリカの民主主義	塚本剛志
	メキシコにおける初等教育の完全普及の最終段階 ——オアハカ州に焦点を当てて——	米村明夫
●現地報告	ブラジルにおける内陸部の農業開発の歴史と現状 ——南マット・グロッソ州ドウラドスの大規模農業——	近田亮平
●研究機関紹介	ハーバード大学ロックフェラー・ラテンアメリカ研究所	山岡加奈子
●ドキュメント	ラテンアメリカ各国の主要経済指標 「2005 年 ECLAC ラテンアメリカ経済速報」より	坂口安紀監訳
●著作紹介	『ラテンアメリカ・東アジアにおける IT 利用と中小輸出企業開発』 ——ECLAC - IDE 報告書の紹介——	植木 靖
●資料紹介	アルベルト松本著『アルゼンチンを知るための 54 章』	宇佐見耕一
	寿里順平著『エクアドル——ガラパゴス・ノグチ・パナマ帽の国——』	清水達也
	中王子聖著『チリの闇——行方不明者を持った家族の証言——』	北野浩一
	星野妙子・末廣昭編『ファミリービジネスのトップマネジメント ——アジアとラテンアメリカにおける企業経営——』	星野妙子
	天理大学アメリカス学会編『アメリカス世界のなかの「帝国」』	村井友子
	石橋純著『太鼓歌に耳をかせ ——カリブの港町の「黒人」文化運動とベネズエラ民主政治——』	坂口安紀

* 上記価格は消費税込価格です。

* ご購入・お問い合わせは、研究支援部成果普及課（出版物販売＝ Tel: 043-299-9735 Fax: 043-299-9736
e-mail: syuppan@ide.go.jp）まで。

—研究所だより—



▼出版物のご案内

●研究双書

* No. 550 望月克哉編『人間の安全保障の射程—アフリカにおける課題』三、四六五円(税込)

* No. 551 平塚大祐編『東アジアの挑戦—経済統合・構造改革・制度構築—』五、二五〇円(税込)

●アジア研選書

* No. 2 内川秀二編『躍動するインド経済—光と陰—』四、二〇〇円(税込)

●統計資料シリーズ

* ㉔8 ASIAN INTERNATIONAL INPUT-OUTPUT TABLE 2000 Volume 1. Explanatory Notes (アジア産業連関表

—二〇〇〇年 第1巻—解説編 五、二五〇円(税込)

* ㉔8 ASIAN INTERNATIONAL INPUT-

OUTPUT TABLE 2000 Volume 2. Data

(アジア産業連関表—二〇〇〇年 第2巻—データ編) 六、〇九〇円(税込)

●情勢分析レポート

「国内外で関心の高いトピックスや緊急な問題について、さまざまな側面から解説や展望を行う」

* No. 1 大西康雄編『中国 胡錦濤政権の挑戦—第一次五カ年長期計画と持続可能な発展—』一、五七五円(税込)

●Occasional Papers Series

* ㉔40 Motoki Ohara, Interfirm Relations under Late Industrialization in China: The Supplier System in the Motorcycle Industry 三、〇四五円(税込)

* 問合せ・申込先—研究支援部成果普及課(販売担当直通)

TEL: 043-299-9735

FAX: 043-299-9736

* 研究所出版物は図書館1階のブックストアでもお求めになります。どうぞご利用下さい。

(営業日時: 月・水・金及び第1・第3土曜日 10:00~17:00 図書館休館日は休業)

▼最近の主な海外来訪者

* インドネシア—Mr. Endy Bayu (ジャカルタポスト紙編集長) 〓 4月18日

* タイ—Ms. Katsuda Supadit (駐日タイ大使館公使参事官) 〓 4月25日

▼次号の特集は「現代中国の政治変容」です。

『アジア経済』 第47巻第6号

6月15日発売 1,050円(税込)

発展途上地域に関する理論機関誌
論文、研究ノート、学界展望、書評、紹介等掲載

*ご購入・お問い合わせは、成果普及課まで
(電話:043-299-9735 FAX:043-299-9736)

『アジア研ワールド・トレンド』 第12巻第6号 通巻129号

2006年6月1日発行

編集・発行

日本貿易振興機構 アジア経済研究所
研究支援部

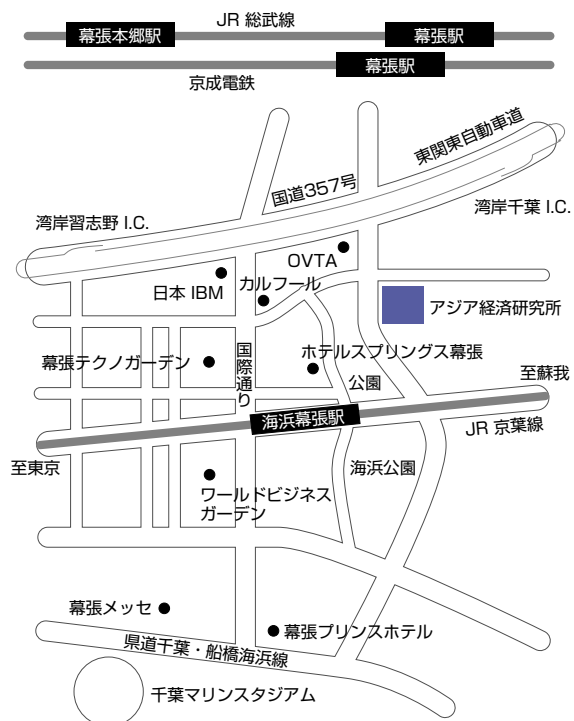
〒261-8545 千葉市美浜区若葉3丁目2番2
TEL 043 (299) 9735 FAX 043 (299) 9736

<http://www.ide.go.jp>

印刷

広研印刷株式会社

アジア経済研究所へのご案内





——アジアきりえ紀行——

新羅の郷

韓国 慶州

名古屋から飛行機でひとつ飛び、韓国へのスケッチ旅行は、韓国の第2の都市・釜山から始まりました。釜山に1泊、翌日新羅の古都・慶州の世界文化遺産である仏国寺や石窟庵を訪問しました。その場所は、日本の飛鳥の風景でした。寺と松並木など東大寺の裏の林を歩いている感じがした。短い時間のなかで、できる限りスケッチをしました。夜は古典舞踊も楽しみました。

(きりえ／解説・日本きりえ協会常任委員 坂部信子)